



筑紫路

発行

自衛隊福岡病院

春日市小倉東
1丁目61番地

Tel 092-581-0431

ホームページ



新型コロナウイルス感染症

克服に向けて」



自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸特補 松本 泰憲

明けましておめでとうございます。

昨年の「今年の漢字」は「密」が選ばれましたが、二〇二〇年が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威に人類が晒された年として歴史に刻まれることは間違いないでしょう。しかし明けない夜はありません。ワクチンの供給等により人々の不安や閉塞感が和らぎ、新型コロナウイルス克服の契機となった年として、この二〇二一年が記憶されることを心から願わずにはおれません。

昨年末COVID-19流行拡大による北海道や大阪での医療体制の逼迫に対して、自衛隊の看護師・准看護師が派遣され、集中治療室等での看護を行う状況が生じました。これらを含むCOVID-19に対する様々な衛生支援は、自衛隊の衛生部門に携わる者にとって、新たな感染症への対処能力が試される場であると同時に、活動を通じて教訓を見出し、更なる知識・技術の向上や関係機関等との連携強化を図る挑戦にもなります。

私が自衛隊医官として勤務してきた三十年余りを振り返ると、今回のCOVID-19への対応のように、自衛隊衛生にとつて新たな挑戦となった活動がいくつもありました。例えば阪神淡路大震災や東日本大震災等への救護支援を通じて災害医療やメンタルヘルス分野の実効性向上、地下鉄サリン事件や福島第一原子力発電所事故等への対応を通じた特殊災害医療への挑戦、国際緊急援助活動やPKO活動等に参加する隊員の健康管理を通じて、幅広い衛生支援活動を経験することによって、それぞれの医療分野に対する対応能力の向上が図られてきたと思います。

これからもCOVID-19や二〇〇九年の新型インフルエンザのような新興感染症のパンデミックは繰り返し発生するでしょう。また感染症の他にも大規模災害等に伴う医療・衛生への脅威が生じる可能性は決して小さくありません。そのような厳しい状況の中にあっても質の高い医療を提供することが、自衛隊衛生の存在意義であると思います。期待される衛生支援のニーズに迅速かつ効果的に応えることができる様、我々は日々の診療や訓練を通じて不断に技を磨き続けていかねばなりません。

自衛隊福岡病院は、自衛隊の職域病院として開院してから今年で六十六年、地域の皆様に対する診療を開始してから十五年になります。引き続き職域・地域の皆様と連携しながら、一日も早いコロナ禍の収束に寄与できるよう精進してまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

新年の挨拶



春陽会会長
中野 直

あけましておめでとうございます。皆様はどのような新しい年をお迎えになったのでしょうか。この度、西川博先生から春陽会会長を引き継ぎました中野直と申します。今後ともよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症一色の一年だったといっても過言ではないでしょう。ちょうど一年前は、中国の武漢で原因不明の肺炎が流行しているらしいという情報が入ってくる程度でした。一月には国内で感染者が確認され、豪華客船ダイヤモンドプリンセス号の対応、学校等の一斉休校、緊急事態宣言とその解除など目まぐるしく過ぎ去っていきました。人との距離を保ち、密を避け、夏の暑い時期でのマスク着用など一昨年末でと違った日常を経験し、社会が大きく変わったことを実感した一年でした。私たちはこの新たな日常に対応するべく意識の変化を求められており、新型コロナウイルス感染症が収束しても以前の生活に戻ることはないと感じざるを得ません。

このようななか、自衛隊福岡病院は新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、治療に当たってこられたと聞きました。その上、院内感染を起こさずに来ていることは賞賛に値します。「新型インフル

エンザ対処訓練」を毎年実施し、保健所等関係機関との連携、施設のゾーニング、感染防護衣の着脱訓練などを繰り返して行ってきた成果と思われます。やったことのないことは、いざとなつてやろうと思っても出来ません。地道に実働訓練を実施し、問題点をあぶり出し次の計画の策定に反映させることを繰り返すことが重要と思われます。これからも、各種訓練を行い、未曾有の事態に対処できる自衛隊福岡病院であつてほしいと思っています。

本年も、新型コロナウイルス感染症は収束していない中、地震や豪雨など不測の事態がおこる可能性は否定できません。あらゆる事態に対し、自衛官はもとより地域住民に安心を与えられる病院であつてほしいと思っています。新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせ、本年が穏やかな年になることを祈つて年頭のご挨拶といたします。



最先任上級曹長
小浦 泰

新年あけましておめでとうございます。

新年を迎えるにあたり、病院長の目となり耳となり、またの意図を伝えていくために、より現場に進出し、准曹士の輪の中に入っていこうと思います。

本年も隊員の皆様並びにご家族の皆様にとって良い年になりますようご祈念し、年頭のご挨拶といたします。

感謝状贈呈式

令和二年十月十一日、開院六十五周年を記念して感謝状贈呈式を実施しました。

病院の充実発展に寄与された三名の方々に對し、感謝の意を表すとともに引き続き、御支援頂けるようお願い申しあげました。

新型コロナウイルス感染症対策として写真撮影の場面以外は常にマスクを着用するとともに、参加者・勤務員を必要最小限にしました。

感謝状受賞者の紹介

春陽会顧問

西川 博 様

太宰府病院看護部長

伊東 志津子 様

株式会社キンヤ

代表取締役社長

楠田 幸次郎 様



協定締結式

令和二年十一月十一日、福岡駐屯地において、大規模災害時に隊員が後顧の憂いなく任務に邁進できる態勢の構築を図るため、福岡駐屯地、春日駐屯地及び自衛隊福岡地方協力本部と自衛隊家族会福岡地区協議会及び福岡県隊友会福岡地区会との間において、「大規模災害時における派遣隊員の留守家族支援に関する協定」を締結しました。



協定書に署名・捺印する各締結者

第四十五期戴帽式

准看護学院は、令和二年十一月九日、病院長の立会の下、第四十五期准看護学生(一年生)の戴帽式を挙行了しました。

四十五期生二十三名は心を一つにし、「学び続ける意志を胸に看護の道を歩み続けることをここに誓います」と宣誓しました。翌十一月十日から部内外の施設での看護実習が始まりました。



教務班長から戴帽を受ける



陪列者と共に記念撮影

第一回駐屯地消防訓練

令和二年十一月十八日、第一回駐屯地消防訓練を実施しました。

長期休暇期間中の夜間を想定した消防訓練を実施し、初期消火対応要領・通報・火災区画からの避難等の練度確認と、防火意識の高揚を図りました。

また、火災区画からの避難においては、独歩患者、護送患者、担送患者と様々な患者を想起させ、より実動に近い訓練が実施できました。



第三回ストレッチャー教育

令和二年十一月十日から十三日の間、病院勤務者に対してストレッチャー操作教育を実施しました。

ストレッチャーの操作要領を教育し、その概要を修得させ操作能力の向上を図るとともに、病院における円滑な患者搬送に資することを目的とし、四半期に一回実施しています。



ストレッチャー教育の様子



輸送班長による教育

山地行進訓練(宝満山)

准看護学院は、令和二年十月九日、最先任上級曹長同行の下、第四十五期准看護学生(一年生)の第二回山地行進訓練を実施しました。

当日は台風十四号の影響が心配されましたが、雲一つない晴天に恵まれました。学生小隊長の指揮の下、同期全員で声を掛け合い、修得した医療の知識・技術を駆使して模擬患者への対応を行い、全員で完歩しました。



模擬患者への処置



迅速な担架搬送



職員教育

令和二年十一月十日から十二日の間、職員教育を実施しました。病院全職員に対して医療安全管理・院内感染対策に関する教育を実施し、識能を向上させることを目的としています。

今回は、医療機器安全教育・放射線技術教育・医療安全教育(クレームへの対応)・院内感染対策教育(ここだけは押さえておきたい「今あなたがやれること」)・各種感染症の抗体価の記録、提出・手洗い実習について教育しました。